

宮城県漁業士会報

海人

K A I T O



第 21 号

(令和 4 年 3 月発行)

写真：みやぎ漁師カレッジ長期研修（ノリ養殖）

宮城県漁業士会

仙台市青葉区本町三丁目 8 番 1 号（宮城県水産林政部水産業振興内）

TEL 022-211-2935 FAX 022-211-2939

漁業士会とは

漁業士制度は、次代を担う漁業後継者の育成・確保を目的として昭和六十一年度に国が制度化したものです。

漁業士になるためには、地域漁業を担う中核的漁業者として、宮城県知事から認定される必要があります。活動経験や年齢に応じて、「青年漁業士」と「指導漁業士」に区分されます。宮城県では平成二年に発足し、令和三年で三十一周年を迎えました。

宮城県漁業士会は、認定された漁業士を会員とする団体です。北・中・南部の三支部に分かれ、研修会や先進地視察を通して会員自身の知識や技術を高めるほか、漁業後継者の育成や魚食普及活動等に取り組んでいます。

今後とも宮城県水産業の振興に向けて取り組んでいきますので、ご理解・ご協力のほどよろしくお願いいたします。

【会員数（令和四年三月現在）】

青年漁業士 五十五名
指導漁業士 七十四名
合計 百二十九名

会長のメッセージ



会長 千葉 周

会員の皆さまにおかれましては、日頃から本会の活動にご理解とご協力を頂いていることに対し厚くお礼申し上げます。

令和三年度は、昨年に引き続き新型コロナウイルス感染症による販売機会の減少や燃油の高騰など不安な思いをした方も多いかと思えます。

漁業士会の活動においても、総会の書面開催や県外視察の延期などなかなか対面での活動が難しい状況でありました。

このような時だからこそ、オンライン等活用しながら、連携・協力し地域水産業の活性化に向けて、前向きに活動を進めていく漁業士会でありたいと思いますので、どうぞよろしく願っています。

新漁業士のご紹介

漁業士の認定

令和三年度は、青年漁業士四名、指導漁業士六名が新たに認定されました。

例年、県庁講堂で認定証交付式が開催されますが、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、規模縮小となり、県庁会議室において認定証と漁業士徽章が交付されました。

新漁業士の皆さまに抱負を語っていただきましたので、ご紹介いたします。



認定証交付式の記念撮影

指導漁業士（六名）

小松 武さん

（JFみやぎ気仙沼地区支所）



【漁業種類】カキ養殖

【趣味】温泉巡り

【抱負】コロナ禍で来たくてもなかなか気仙沼にお越しいただけない方々に、気仙沼の香り豊かなカキをお届けして喜んでもらいたいです。

佐藤 博さん

（JFみやぎ北上町十三浜支所）



【漁業種類】ホタテ・ワカメ養殖

【趣味】バレーボール

【抱負】北海道産ホタテ半成員のへい死を受け、地産半成員の増産・稚貝の安定確保を目指しています。県等の指導を仰ぎながら頑張りたいです。

指導漁業士（六名）

本田 孝彦さん

（JFみやぎ石巻湾支所）



【漁業種類】 カキ養殖

【趣味】 釣り

【抱負】 漁業士としての自覚を持って、何事も新しい事にチャレンジしています。今後、県内の漁業に貢献できるような漁師になりたいです。

石森 亘さん

（JFみやぎ谷川支所）



【漁業種類】 ホヤ養殖

【趣味】 サーフイン

【抱負】 漁業士会を通して知識を学び、地域漁業の発展に努めていきたいです。

阿部 弘幸さん

（JFみやぎ谷川支所）



【漁業種類】 ホタテ・ホヤ養殖

【趣味】 旅行

【抱負】 漁業士会の活動を通して、宮城の海を明るくしていきたいです。

米倉 和久さん

（JFみやぎ谷川支所）



【漁業種類】 ホタテ養殖

【趣味】 読書

【抱負】 地域漁業の振興に貢献していきたいと思っています。

青年漁業士（四名）

渥美 建さん

（JFみやぎ谷川支所）



【漁業種類】 ホヤ養殖

【趣味】 釣り

【抱負】 漁業士会の活動に積極的に参加し、知識・技術を学びながら地元漁業の発展に貢献していきたいです。

渥美 政雄さん

（JFみやぎ谷川支所）



【漁業種類】 ホタテ・ホヤ養殖

【趣味】 健康麻雀

【抱負】 漁業士として、後継者・若手漁師への育成に努めていきたいです。

阿部 誠二さん

（JFみやぎ谷川支所）



【漁業種類】 漁船漁業・ホヤ養殖

【趣味】 料理

【抱負】 常に変わっていく海洋環境に対応しながら、新たな魚種の開拓をしていきたいです。

赤間 俊介さん

（塩釜市漁業協同組合）



【漁業種類】 ワカメ養殖

【趣味】 旅行、グルメ

【抱負】 真に持続可能な沿岸漁業を盛り上げます！

支部便りでは、北・中・南部の各支部の活動や注目する漁業士をご紹介します。

北部支部

宮城県漁業士会 北部支部研修会

当支部では、令和三年七月十六日に気仙沼合同庁舎大会議室を会場とし、研修会を開催しました。研修会には講師として、一般社団法人サステイナビリティセンターの太齋氏をお迎えし、「温暖化・酸性化が海洋生物に与える影響」について講演いただきました。

講演では、温暖化により志津川湾内でも南方系の魚が見られるようになってきており、中には越冬する魚種も確認されていることや、海洋の酸性化が炭酸カルシウムの生成を阻害することにより、幼生期の貝類の殻の形成に影響が出る可能性があることなどについて説明がありました。参加者からも様々な質問が挙がり、有意義な意見交換の場となりました。



研修会の様子

北部管内先進地視察

令和三年九月七日に先進地視察を開催しました。昨年は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を考慮し、実施することができませんでした。今年度は、今年度は万全な対策を行い、視察場所を北部管内に限定し実施しました。

視察先は①株式会社ケーエスフーズ折立陸上養殖場、②南三陸町自然環境活用センター、③志津川淡水漁業協同組合 小森ふ化場、④宮城県水産技術総合センター気仙沼水産試験場の四か所、施設の見学及び意見交換を行いました。

①株式会社ケーエスフーズ折

立陸上養殖場では、事業開始までの経緯や現在の取組、今後の計画などを説明いただいたあと、ウニ・ナマコの養殖施設や種苗生産棟などを見学しました。

②南三陸町自然環境活用センターでは、センター内にある標本や研究に使用する機材など見学しながら、現在の活動内容について教えていただきました。意見交換の場では、藻場回復に向けた取組状況や地球温暖化により暖海性の魚が増加傾向であり、植食性魚類による食害が増えていることなどを説明いただき、参加した漁業士からも磯焼け対策の取組内容や今後の計画について報告するなど大変有意義な時間となりました。

③志津川淡水漁業協同組合 小森ふ化場では、親魚の採捕から稚魚の放流までの作業工程やふ化放流事業の今後の課題について説明いただき、施設を見学した際は具体的な作業内容も教えていただきました。サケの資源維持・回復に向け、漁業者の協力も必要であることが再確認できました。

④宮城県水産技術総合センター気仙沼水産試験場では、試験場の取組内容を説明いただき、貝毒の状況やホタテの採苗について意見

交換を行いました。

今回の視察により、磯焼けやサケ稚魚放流の現状、今後の課題を改めて理解することができました。来年度も新型コロナウイルス感染症の動向を見ながら、継続して開催したいと思います。



南三陸町自然環境活用センターでの意見交換の様子



(株)ケーエスフーズ折立陸上養殖場見学の様子

中部支部

当支部の阿部漁業士は、石巻市の谷川鮫浦地区で漁船漁業、ホヤ養殖業を営んでおり、JFみやぎ谷川支所の青年部員としても精力的に活動されています。今回は、阿部漁業士が取り組まれてきたこれまでの活動と、今後、漁業士として取り組みたいと考えている活動についてご紹介します。

プロフィール

阿部 誠二 青年漁業士
(JFみやぎ谷川支所)



【漁業種類】 漁船漁業、ホヤ養殖業
【主な活動】 JFみやぎ谷川支所の

青年部員として、ホヤの浮遊幼生調査やナマコの種苗生産に精力的に取り組んでいます。

谷川支所青年部員について

阿部漁業士は、谷川支所青年部の一員として、ホヤの浮遊幼生調査やホヤの販売会、ナマコ種苗生産・中間育成などに取り組んでいます。また、震災直後に被害を受けた漁場で日々行われていた行方不明者の捜索活動や、瓦礫撤去作業を目の当たりにし、災害時に自身が浜のために活動できるよう、潜水士資格も取得しました。

令和三年度も、ナマコの種苗生産に取り組み、六月には二百八十万個体のナマコ受精卵の飼育を開始しました。約二か月後の八月には、二ミリ程度に成長した稚ナマコ二千八百個体を屋内水槽から沖のイカダに移動しました。沖のイカダでは、約半年後の二月まで中間育成を行い、二十ミリ程度まで成長したナマコを鮫浦湾内に放流しました。

青年部員として、地元漁業者の経営安定化や、資源管理に対する意識の向上につながるよう、磯根資源の維持・増殖にも精力的に取り組んでいます。



今後の漁業者について

また、阿部漁業士は、青年部活動以外にも様々な活動に取り組んでいます。

新型コロナウイルスが流行する以前は、自身が漁獲・生産した水産物を飲食店へ持ち込み、その水産物を使った料理を提供する会場において、消費者と交流を図り、消費者の声や要望などを漁業に取り入れ、水揚げする水産物の品質向上を目指して取り組んできました。

その他にも、東日本大震災からの復興の様子を伝える語り部活動や、地域漁業のPRなど、県外での情報発信や交流にも力を入れています。

これからについて

多方面で精力的に活動されている阿部漁業士は、「県内外の漁業者との関わりを増やし、様々なことを学び、自分の視野を広げたい」と、漁業士になった理由を教えてくださいました。

また、「地域漁業のPR活動や、後継者・若手漁師の育成にも、こ

れまで以上に力を入れない。海洋環境の変化によって、漁獲物も変化してきており、新たな魚種や養殖物の導入が必要だ。そのためには、県内外問わず、様々な漁業者との意見交換や現場視察、資源管理の取り組みについても学びたい。漁業士だからこそできる活動に積極的に取り組みたい。」と、今後の漁業士活動への抱負についても話してくださいました。

海洋環境の変化や新型コロナウイルス感染症の影響など、漁業者を取り巻く環境が刻一刻と変化する中、資源管理や地域漁業のPRなど、多方面で精力的に活動される阿部漁業士をはじめとした若手漁業士のさらなる活躍が期待されます。

事務局としても、支部の垣根を越えた活動について支援していきたいと思っています。



上：種苗生産した稚ナマコ
下：県外のイベントに参加した様子（ブース）

こども食堂が実施する 食糧支援事業への食材提供

漁業士会南部支部では、平成三十年度から、こども食堂への食材提供を通じた様々な魚食普及活動に取り組んできました。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、これまで実施してきた漁業士による対面でのワークショップなど、子どもたちとの交流を主とした魚食普及活動が難しい状況になっています。

このような状況下で、当支部では、魚食の灯火を絶やさないためにも、一部のこども食堂が実施する宅配やフードパントリーなどの食糧支援事業に協力し、焼き海苔等の日持ちする水産物を提供しています。

子どもたちや保護者からは、「味付け海苔がとても美味しかったです!」「朝ご飯に海苔巻きを作ると喜んで食べてくれました!」など、嬉しい感想を頂いています。

また、子どもたちに生産者とのつながりや宮城のおいしい食べ物への関心を失わずにいてほしいという思いから、こども食堂が実施

する子どもたちとの文通事業にも参加し、生産者からの海苔や魚に関するクイズや、手書きのメッセージを送るなど、子どもたちとの交流は今も続けています。

コロナ禍の中ではありますが、今後も漁業士会南部支部では、子どもたちの笑顔を励みに、子どもたちの「大好きな水産物」を増やす活動を続けていきます。



提供した水産物

ホテルシェフを対象とした カキ養殖現場研修

これまでホテルメトロポリタン仙台では、料理にカキを使用する

ことができませんでしたが、半年前にルールが緩和され、宮城県産カキ使用メニューの考案が検討されています。

ホテルメトロポリタン仙台に所属し、一般社団法人全日本司厨士協会宮城県本部青年料理研究部長を務める目々澤シェフから、地元で盛んに生産されているカキをメニューに活用するにあたり、改めて勉強したいとの依頼を受けました。このため、JFみやぎ松島支所と鳴瀬支所の漁業士による、ホテルメトロポリタン仙台所属の若手シェフの方々を対象としたカキ養殖現場研修を令和三年十一月九日及び十六日に開催しました。

現場研修では、生産工程の解説を交えた種がき仮植場やカキ水揚げ作業の見学、カキ処理場の機能や出荷に至るまでの衛生管理の説明、カキ剥き体験等が行われました。

参加者からは、乗船しての現場見学ができ、漁業者の生の声を聞けて非常に勉強になったと好評を頂いています。今後、ホテルメトロポリタン仙台では、鳴瀬や松島地区の漁業者の顔が見える形で直接買い付けしたいとのことで、販路の拡大が期待されます。



研修の様子



水産業の未来を語ろう

座談会を開催しました

「水産業の未来を語ろう」は、活力ある水産業の未来に向けて、漁業士の皆さまに語っていただく新企画です。

今回は、「法人化」をテーマとして、法人経営を行っている漁業士の皆さまと専門家も交えた座談会を開催しました。

参加者プロフィール

- 【漁業士】
- 〓宮城県漁業士会
 - 〓千葉周 指導漁業士（会長）
 - 〓北部支部
 - 〓小松 武 指導漁業士
 - 〓藤田 純一 青年漁業士
 - 〓中部支部
 - 〓西條 寛 指導漁業士
 - 〓南部支部
 - 〓菊地 幹彦 指導漁業士
 - 〓赤間 俊介 青年漁業士
- 【専門家】
- 〓漁業経営相談員 藤島 武雄 氏
 - 〓社会保険労務士 阿部 裕一 氏

「宮城県は、特に震災をきっかけに法人化された方が多くいますが、全国的にはどのような傾向なのでしょう？」

【藤島】全国の五年間の推移を見ると、漁業経営体の経営構造はかなり変化しています。会社組織や共同経営体等が非常に増加しています（下表参照）。

「なるほど。最近は漁業に限らず、様々な分野で「担い手の確保」「事業の継続」が課題となっていますが、その改善策として法人化が挙げられるのかもしれませんが。早速、漁業士の皆さんに法人化のきっかけやメリットを伺っていきます。」

【千葉】私の場合、従業員は一名だけですが、その方にきていただく際に、法人化した時に社会保険や厚生年金を完備したことが漁業に就業する人にとっては安心材料だったということで、スムーズに話が進みました。今はその方に四年ほど続けてもらっています。

【小松】同感ですね。求人して二七歳の若いバリバリの新入社員が入ってくれました。加えて、漁協以外の金融機関にも話をしやすくなりまし



小松指導漁業士

漁業経営体数	2013 年					2018 年					増減 (2013 年- 2018 年)				
	個人	団体			合計	個人	団体			合計	個人	団体			合計
		会社	共同経営	漁協等			会社	共同経営	漁協等			会社	共同経営	漁協等	
全国	89,470	2,534	2,147	356	94,507	74,596	2,545	1,711	290	79,142	-14,874	11	-436	-66	-15,365
青森	4,371	41	69	20	4,501	3,567	48	72	15	3,702	-804	7	3	-5	-799
岩手	3,278	14	39	34	3,365	3,317	17	37	35	3,406	39	3	-2	1	41
宮城	2,191	58	10	52	2,311	2,214	80	16	16	2,326	23	22	6	-36	15
秋田	698	20	38	2	758	590	14	26	2	632	-108	-6	-12	0	-126
山形	342	6	9	2	359	271	5	6	2	284	-71	-1	-3	0	-75
福島	0	14	0	0	14	354	14	9	0	377	354	0	9	0	363

全国と東北6県の漁業経営体数の推移（出典：漁業センサス）

した。実際に借りられましたし、法人化していたからだと思います。

【藤田】法人化のきっかけは、ちよつと皆さんと違ってあります。震災後に、気仙沼市の取組みとして、市場の仲買人や水産加工業者の方と一緒に、半年間いろいろな勉強をしました。その際、地元で獲れたおいしい魚や自分の家で作った海藻類、タコをお客さんに届けて幸せな気持ちになってほしいという思いが一緒に根底にあつて、そのメンバー三人で会社を設立しました。

漁業をやっている感じなのですが、一人の力というのはいしよせん一人ではかかないと思うんです。例えば私が作ったものを、会社を通して販売するとか、市場の仲買が買ってきたものを一緒にやっている水産加工業者に運んで、直接問屋さんや個人のお客さんに流すといった取組みもできるようになってきました。今は市内の水産加工業者とIT系の業者にも仲間に入ってもらいました。もっと仲間が増えるといいなと思っています。

【菊地】私のきっかけは、グループで作業する上でメリットが大きかったことですね。特に、「目的意



藤田青年漁業士

識がはつきりする」ということです。元々個人事業主の集まりだったので、良かったのかもしれないです。水産関係はどうしても入札制度ですし、環境等の影響を受けやすい部分がありますが、販売は自分で努力できる部分なのも評価したいです。



菊地指導漁業士

「皆さんそれぞれのきっかけがあるのでですね。メリットとしては、融資や雇用、取引拡大につながるということが大きかったかと思えます。こちらについて、阿部先生からはいかがでしょうか。

【阿部】求人を出している法人は、社会保険の加入が当たり前になっています。仕事を探している人は、まずは公的保険がかかっているかを優先しています。個人商店が求人しても集まらない理由のひとつは、そこにあると思います。漁業では法人化して従業員を雇用すると労災保険を必ずかけなければならぬのですが、漁業で法人化されたところの話を聞くと、労災事故は業種柄多いので、労災事故が起きたときに今までは自腹で治療費を払っていたとか、損害保険の給付を受けていたということが多

いのですが、労災保険に加入したことで全額治療費は補てんされまし、休んでいる期間の給料の八割が補てんされたので、その点では法人化して非常に良かったという話も聞いております。

「それでは、ここからは法人化にあたって苦労されたこと、デメリットと感じていること等を紹介いただければと思います。

【小松】当たり前ですが、社会保険等の負担は増えたところ最初は感じました。あとは司法書士や税理士に相談したので、法人化で苦勞するということはありませんでした。

【藤田】会社の経理をまだ雇える余裕がないため自分でやっています。が、会社同士のやり取りだと納品書や請求書の事務処理などの負担が増えました。また、いろいろな会に参画して時間の制約が増えたという感覚はあります。

もちろん、人のつながりが増えるというプラスの部分でもあるのですが。



座談会の様子（本会場）

【西條】順調に利益が出せてその分の余裕資金があればいいのですが、経費だけを支払うような月もある。その辺が法人化すると厳しいような気がします。将来的にはその分も返ってくるのでしようけれど。



西條指導漁業士

「確かに、ピーク時にドサツと水揚げして、他のシーズンは休んでしのごというのは難しいと思います。何か一定の売上確保のために取り組まれていることがあれば教えていただきたいです。

【赤間】最近、個人事業でカフェを始めました。スポーツ栄養学や管理栄養士の観点で、海藻や地場産品を使ったヘルシーなお弁当を出しています。地域のニーズを読む場所として、ごく小規模事業ですが、けれど賑わってきいている感じはあります。



赤間青年漁業士

【千葉】漁業士会南部支部では数年前から水産×ITについて勉強会を開催していて、例えば環境変化や災害時にも、柔軟に対応できる漁業体制を考えているところでした。

【西條】売上が下がった頃、利益の幅を大きくする努力はあったと良いかな。私は売電事業と人材派遣にも手を出しながらやっています。

「皆さん、経営の持続をすごく意識されているんですね。最後に、会報を読んでいる漁業士の皆さまに向けて、一言お願いします。

【菊地】私はあくまで「漁業者」でありたい。八割以上は海（生産）で生計を立てていきたい。ただ、どうしても養殖だけだと将来不安になると思うので、それを補うためにこれからの漁業者は販売とか流通の部分も広く考えていけたらと思っています。

【藤田】販売等に取り組むと、お客様の笑顔とか食べている風景を想像できると思うんです。これは商売のやりがいにもつながるし、興味がある漁業者には法人化を勧めながら、情報共有していきたいです。

「宮城県では、現在「人を育てる」ことを一番に考えています。今回は水産業界のトップランナーの皆さまのお話を伺いましたが、ぜひ漁業士会を通じて多くの漁業者の方々にお伝えしていきたいです。本日はありがとうございました。

トピックス

「みやぎ漁師カレッジ」が 開催されました

県が漁業の担い手育成・新規就業者確保のため開催している「みやぎ漁師カレッジ」において、座学や漁業現場の講師として漁業士の皆さまにご協力いただきました。

令和三年六月一日から十二月まで開催された長期研修では、新規就業希望者三名、漁業後継者二名の計五名が参加し、宮城の水産業の概要、漁業関係諸制度等の座学や、ノリ・カキ・ワカメ・ギンザケ・ホヤ・ホタテ養殖、定置網等の現場研修を受講しました。

また、一級小型船舶操縦士、第二級海上特殊無線技士、フォークリフトなどの資格を取得しました。研修修了後、研修生は県内漁業の各現場に就業しています。

また、令和三年十月二十二日から二十四日の三日間開催された短期研修では、宮城の漁業に関心のある十名が集まり、宮城の水産業



小型底曳網漁業現場研修（長期研修）

や各漁業種の概要等の座学、定置網やカキ剥き、ホタテの耳吊り作業などを体験しました。

○ご協力いただいた漁業士の
皆さま（順不同）

～長期研修～
千葉 周 指導漁業士
最知 隆 指導漁業士
三浦 恒志 指導漁業士
後藤 修 指導漁業士
尾形 一彦 指導漁業士

「みやぎ漁師カレッジ」は来年度も開催される予定ですので、ご協力いただける漁業士の方は事務局までご連絡ください。



ホタテ耳吊り作業体験（短期研修）

「みやぎ漁業就業支援オンラインフェア」が開催されました

県が主催する「みやぎ漁業就業支援オンラインフェア」が、令和三年九月五日、十一月七日の二回開催されました。

このフェアは、新規就業について直接相談できる場を提供し、「漁業就業希望者」と「担い手を確保・育成したい漁業者」のマッチングを図るため、平成二十九年度から毎年開催されてきた漁業就業支援フェアが、新型コロナウイルス感染拡大を受け、昨年からオンライン形式で開催されているもの

です。

同フェアは来年度も開催される予定ですので、興味のある漁業士の方がいましたら、事務局までご連絡ください。

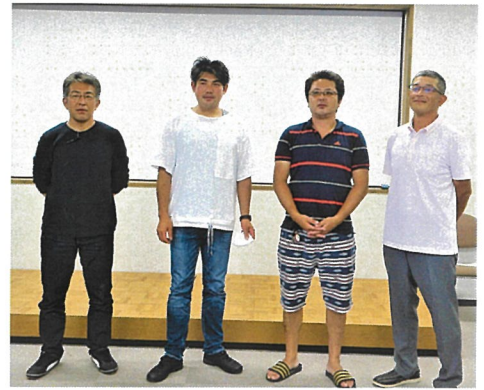
青年漁業士養成講座について

県が主催する「青年漁業士養成講座」が令和三年八月二十四日・二十五日に宮城県水産技術総合センターで開催されました。

本講座は漁業士として活動するために必要な知識を身につけるものです。今回の受講者は三名で、最新の漁業情報や漁家経営のあり方、漁業士会会長からの体験談等の講義を熱心に受講していました。受講者の皆さまが今後漁業士に認定され、ご活躍されることを期待しています。

○受講者の皆さま

高橋 栄樹さん
(JFみやぎ歌津支所)
佐々木 英幸さん
(JFみやぎ歌津支所)
阿部 智司さん
(JFみやぎ谷川支所)



千葉会長と受講生の皆さま

退任漁業士のお知らせ

令和三年度末までに指導漁業士
認定期間が終了し、退任されました
方は次のとおりです。

○令和三年度任期満了

阿部 長喜さん

(JFみやぎ歌津支所)

三浦 富一さん

(JFみやぎ歌津支所)

高橋 源一さん

(JFみやぎ志津川支所)

鈴木 典子さん

(JFみやぎ女川町支所)

佐々木 克弥さん

(JFみやぎ北上町十三浜支所)

阿部 泰正さん

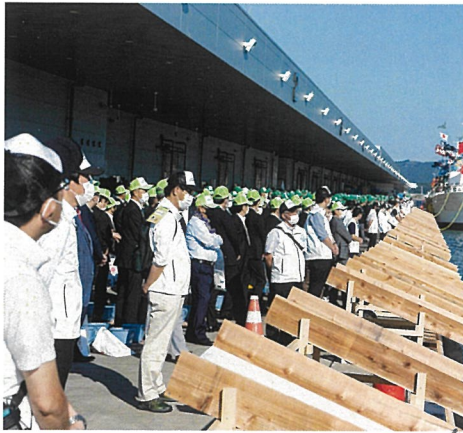
(JFみやぎ表浜支所)

これまでの漁業士としての活動
に感謝申し上げます。

第四十回全国豊かな海づくり 大会の開催について

令和三年十月三日、石巻市にお
いて第四十回全国豊かな海づくり
大会が開催されました。

本大会には、会長が実行委員会
の一員として開催に携わったほ
か、多くの漁業士が参加しました。
当日は、県内外の関係者が一堂に
会し、東日本大震災の際に全国か
らいただいた数多くのご支援への
感謝の想いと、豊かな海を育む山・
森・河川の強いつながりや環境保
全の大切さ、本県水産業の明るい
未来を全国に発信する大会となり
ました。



海上歓迎・放流行事の様子

「みやぎ水産の日」×

宮城県漁業士会

県では、毎月第三水曜日を「み
やぎ水産の日」と制定し、県漁協、
市場関係や販売店等と連携して、
県内水産物の魅力を発信する取組
を行っています。

各支部で「みやぎ水産の日」に
あわせた販売会などを行っていま
すので、興味
のある漁業士
の方がいまし
たら、各支部
事務局にご連
絡ください。



宮城県漁業士会ロゴマーク で活用ください！

宮城県漁業士会では、漁業士の
認知度向上（PR）と漁業士が生
産した商品の付加価値向上を目的
として、ロゴマークを作成し、そ
の活用を推進しています。

宮城県漁業士会の認知度向上
（PR）を目的とした取組（名刺、
封筒、ホームページ、店舗入口へ
の掲示等）、商品パッケージへの
使用、及び商品の販売促進等で幅

広くご活用いただければと思いま
す。詳しくは県漁業士会事務局又
は所属の支部事務局にお問い合わせ
ください。



浜のリーダーが
育てた美味しいもの



浜のリーダー
自慢の美味しいもの

海人では、皆さまからの原
稿をお待ちしています。内容は
自由で、四〇〇字詰め原稿用紙
二枚以内にとり、漁業士会事
務局までお送りください。

海人編集委員（敬称略）

北部委員 小野寺 和義

中部委員 高泉 元幸

南部委員 千葉 周